

F-16 共働きの研究 (第1報)

—パートタイマーについて—

宮城学院大家政 横山 シヅ

1. 最近の労働市場の変化にともない女子のパートタイム雇用に対する関心が高まりつつある。一方家庭の主婦は家計補助、消費生活の充実を目的とした就業を希望する傾向が強まり、中高年齢層でも就業可能なパートタイマーとして各種の職場に進出しはじめている。今回の調査は婦人就労の一形態としてのパートタイマーの実態を知り、職種別に就職の動機、主婦の就業による家庭経営面への影響およびその問題点などの把握を試みた。

2. 調査対象はパートタイム雇用をシステムとして採用している仙台市内百貨店に勤務する女店員75名、仙台市近郊計算器製作工場勤務の女子工員75名、計145名に対し、配票記入式により質問を行なった。調査時期は昭和44年4月中旬である

3. 対象の年齢は両者共30~40歳が70%を占める。学歴は女店員は高校卒、工員は中卒が多い。世帯主の収入は女店員は平均6.2万、工員は5.6万でいずれもその40%が現在の収入に不満を示している。就職の動機については工員は家計補助、教育費積立など経済的理由が多く、店員は社会勉強、生きがい感を得るなど精神的理由による者が多い。労働時間が5時間以内の場合は生活時間配分、家事の分担など普通家庭主婦の場合と差は認められないが、6時間を越す場合には家事の省略、留守中の心配、子供との接触時間の不足などの不満が表われる。これに対して対策を考えて家事処理をしている主婦は低率であった。